

第 1 回中原区区民会議運営部会会議録

1 開催日時 平成 24 年 8 月 23 日（木） 午前 10 時～正午

2 開催場所 中原区役所 5 階 505 会議室

3 出席者

委員 川連部会長、富岡副部会長、板倉委員、稲富委員、反町委員、成田委員、藤嶋委員
事務局 小野副区長、川添企画課長、園田担当係長、倉見担当係長、橋本職員、深谷職員、
野並職員
石塚計画デザイン事務所 千葉さん、牟禮さん

4 議題

- (1) 中原区区民会議運営部会要領について（公開）
- (2) 正副部会長の互選（公開）
- (3) 会議録確認委員の選任（公開）
- (4) 第 4 期区民会議の審議テーマについて（公開）
- (5) 第 2 回区民会議について（公開）

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 中原区区民会議運営部会要領について

事務局から別添 3 に基づき、中原区区民会議運営部会要領について説明。了承される。

(2) 正副部会長の互選

全会一致により、部会長に川連委員、副部会長に富岡委員を選任した。

(3) 会議録確認委員の選任

板倉委員を選任した。

(4) 第 4 期区民会議の審議テーマについて

事務局 資料 2 に基づき、第 1 回区民会議での審議内容及び検討テーマ案について説明。

藤嶋委員 「新旧住民」の交流をすべてのテーマに関連させているが、そもそも「新住民」は「旧住民」と交流を求めているのか、疑問である。「新住民」は自分たちだけで楽しく生活していきたいという声があるとも聞く。

板倉委員 平成 23 年度に中原区役所では、再開発地区を対象としたアンケートを行っていたが、結果はどうだったのか。

事務局 藤嶋委員が指摘された意見も一部にあることは承知しているが、新しく住まわれたの方の多数は、中原区をもっと知りたいと思っているようである。ただ、同じ町内会に加入することには抵抗があるようである。また、再開発地区には意外と高齢者も住んでいる。地域との交流を求めている人は少なからずいると認識している。

川連部会長 新丸子で商店街のイベントを開催すると音量についての苦情を一部のマンション住民から言われる。すべての人がそうだとは思わないが、静かに生活したいと思っている住民もいることを認識しなければならない。

富岡副部会長 町会の盆踊りでも同様の苦情はある。

事務局 マンションの住民に限らず、同様の苦情は市役所にもある。ただ、多数の意見と

しては、交流を求めていると認識している。

アンケートの結果を紹介する。「地域に愛着を感じるか」という問いに対して、9割以上の方が「ある程度」以上の愛着を感じているとの結果が出ている。「近隣コミュニティと交流する機会に参加するか」との問いに対しては、3割以上の方が参加している。一方、3割の方は参加を希望していない。残りの3割の方は情報がなくて、参加していない。

川連部会長 第3期区民会議では、避難訓練の様子を確認した。普通の家庭にないものを使用して避難訓練をしていたこと、調理室で食事を作っていたことに疑問を感じた。もう少し現実に即した避難訓練を行う必要があるのではないかと。

藤嶋委員 災害用トイレを設営するのも、とても時間がかかっていた。

反町委員 第3期では、防災紙芝居を作成した。子どもだけではなく、親子で防災について学ぶツールとして、今後も活用してもらいたい。

藤嶋委員 防災のビデオがあるのであれば、もっと活用してもよいのではないかと。ゴミのビデオはよく見る。

板倉委員 東日本大震災は親が帰宅する前の子どもを襲ったため、子どもが右往左往していた。震災の経験を踏まえて、子どものための防災マニュアルがあっても良いのではないかと。

富岡副会長 子どもが在籍している時の災害対応マニュアルについて、現在、学校が作成していると聞いている。

板倉委員 東日本大震災の時のように、下校後で親が帰宅する前の場合は想定されていないので、考える必要があるのではないかと。

稲富委員 子どもの前に、親が災害対応について学ぼうとしているかも知る必要がある。また、「釜石の奇跡」と言われていたが、過去の災害の経験を生かすことができる場合がある。中原区の過去の災害を確認し、伝えていく必要があるのではないかと。

さらに、第3期の避難訓練を見学したときは、中学生が一番よく動いていた。中学生を活かした取組ができるとよい。

成田委員 学校に通う子どもは放課後、わくわくプラザに行く子もいれば、家に帰る子もいるなど、行動がバラバラになる。すべてを想定するのはなかなか難しい。

家族単位ではよく防災について話すようになったが、親同士が防災について情報交換することは今もほとんどない。もう少し広がっていけばよいが、なかなか広がらない。

子育てサロンで「ぼうさい出前講座」を実施したが、多くの親御さんはいざという時は地域の自主防災組織が何とかしてくれるだろうという認識でいる。危機管理について、親同士ではほとんど話題にならない。

富岡副会長 町会でも避難訓練を行っているが、現実に学校区の住民がすべて避難してきても避難所には収容できない。結局は、自助が一番大事だと認識してもらうことが大切である。防災意識の向上が必要である。

稲富委員 板倉委員が指摘したように、日中で親がいないことを想定した防災訓練を行えば、

少しは若い世代の住民の関心が集まるのではないか。

事務局 親と子どもが離れているときに災害が起きた場合、どうするのかに関する意見が多かった。先日、区民会議では災害図上訓練（DIG）について、参与から指摘があった。DIGを活用して、こうした場合を想定した訓練であれば、できるかもしれない。

藤嶋委員 町内会に入りたがらないことは、地域で防災を考えていく上でマイナスだろう。

稲富委員 共助の入口となる組織が町内会になると思うが、その必要性が理解されていない。

川連部会長 先ほど事務局から「情報がいないため、地域と交流できない」というアンケート結果が紹介されたが、以前、新丸子の商店街の情報を提供しようとしたら、マンション側に拒否されており、そもそも情報を届けられないという実情もある。

成田委員 子育て世代の住民もしばらく経てば、親を介護する立場になる。そこで、子育て世代が高齢者のコミュニティをサポートする形が出来れば、住民同士の交流も活発になる。町内会館などを活用できないか。

富岡副会長 今井小学校では、校長先生からの打診もあり、空き教室で高齢者の会食会を行っている。

反町委員 第3期の「子育てふれあいカフェ」では、幼児食の試食などを行うなどの工夫をした。同様に、高齢者との交流機会を盛り込むなどの工夫ができるのではないか。

事務局 第3期の「子育てふれあいカフェ」は、乳幼児健診時に開催したので、多くの人で賑わった。これを地域で開催するには、集客面で工夫が必要であろう。

川連部会長 子育ての問題を考えると、子育てサロンに参加する親は課題がないのであろう。

こういう交流の場に出ることができない親をどうするかが問題なのではないか。

稲富委員 第3期のアンケートで感じたが、せっかく同世代の区民が同時に区役所へ訪れているのだから、その区民同士がその場でもっと交流できる機会を持たせることができれば、理想的である。

富岡副会長 健診で来た方にサロンの紹介はしている。

稲富委員 紹介だけではなく、その場で体験できた方がより良い。

成田委員 健診の待ち時間に子育てサロンの紹介ビデオを流すなどの工夫はしている。サロンを運営していて気づくのだが、1回サロンに足を運んで、すぐ友達をつくることができる親と自分の子どもを他人に触らせることに抵抗があり、2回目以降来なくなってしまう親がいる。

事務局 区内には他人の子どもでも面倒見たいと思っている高齢者はたくさんいる一方、そういう高齢者に子どもを任せたいと思っている親もいる。ただし、結びつけるきっかけがない。

川連部会長 魅力発信については、中原区まちづくり推進委員会でまちフォトコンテストを実施している。様々な知られざる魅力を発掘できている。

事務局 「武蔵小杉 Walker」が来月発刊される。武蔵小杉は地域として、外からも注目されている。

板倉委員 以前参加したワークショップで分かったが、子どもの日常の行動範囲は学校区の中である。こうした小さいエリアで「魅力」をまとめることもできるのではないか。

稲富委員 私の立場として申し上げますと、企業も魅力の一つである。第3期報告会で富士通川崎吹奏楽団が出演したが、そういう資源も活用してもらいたい。

若干話がそれるが、以前私どもの委員長が「お宝鑑定団」の誘致を目指したことがあり、その際、先方からは「出品者を100人集められれば考える」と言われた。中原区は歴史もあるので、この番組をきっかけに歴史・文化を掘り起こし、魅力発信も考えられるのではないか。さらにそこへ区民会議報告会をぶつけられれば、報告会の集客も心配する必要がなくなる。

事務局 テレビや雑誌などの媒体と区民会議を結び付けて発信できれば、面白い取組ができるだろう。今後の検討材料としたい。

ここまでは、それぞれのテーマ案の内容を議論してきた。区民会議として、検討する順番はどうするか。

藤嶋委員 災害はいつくるのかわからないので、早く議論した方が良い。

富岡副会長 どれも長い時間をかけて議論できる重たいテーマだ。あえて順番を付けるとすると最初は防災だと考える。

川連部会長 では、第4期区民会議1つ目のテーマは、「防災」とする。本日はテーマ名まで議論する時間がなかったので、事務局と協議し、正副部会長で決定させてもらいたいが、一任してもらえるか。

(一同了承)

川連部会長 2つ目以降の検討テーマは、次回以降の運営部会で引き続き検討する。

(5) 第2回区民会議について(公開)

事務局から資料5に基づき、第2回区民会議次第案について説明。了承される。

以上